



戦略的イノベーション創造プログラム（SiP）第3期

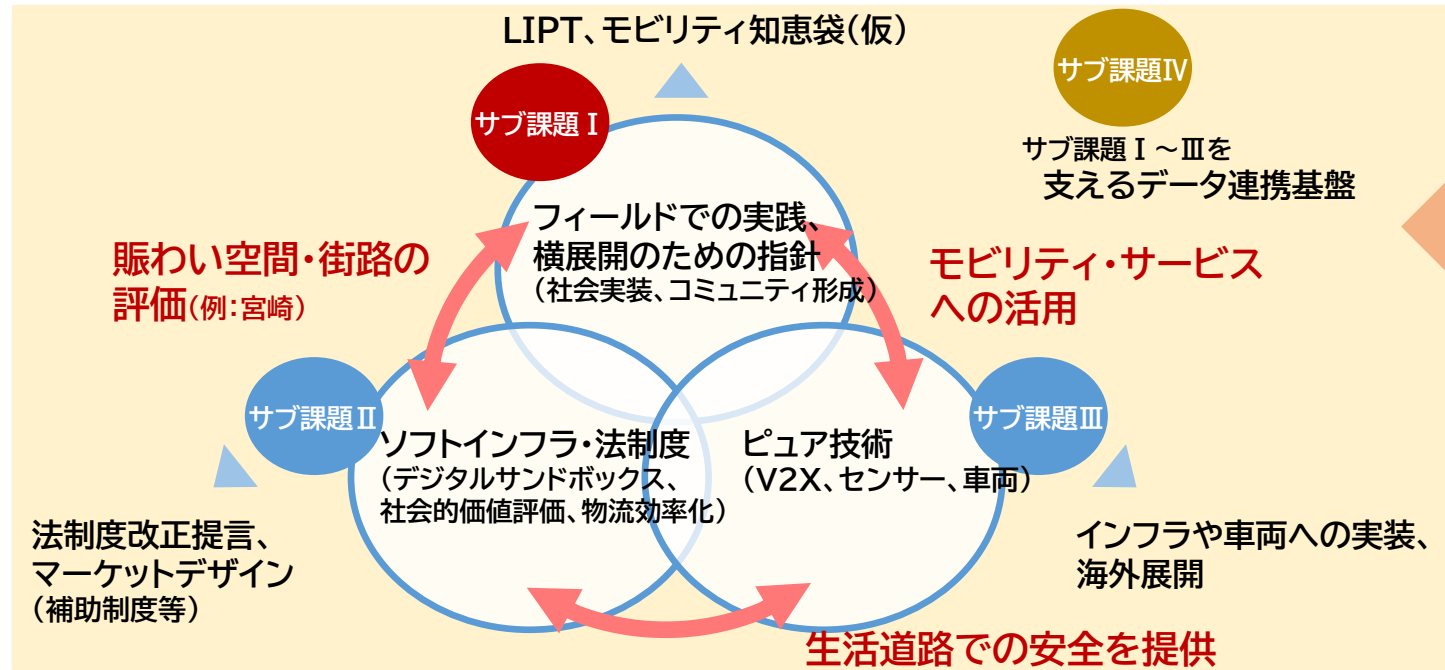
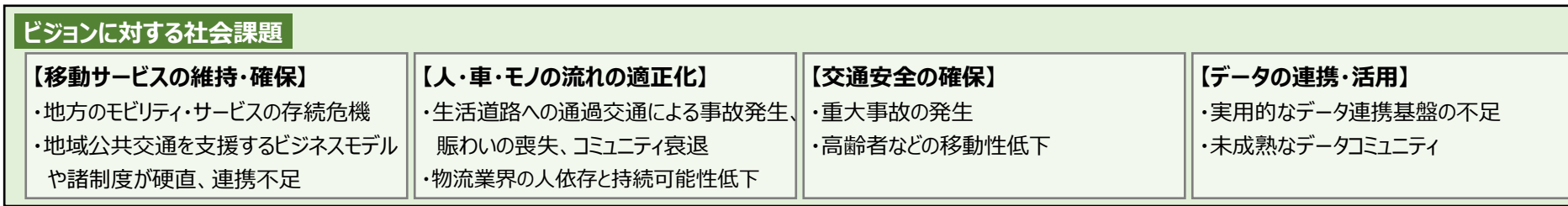
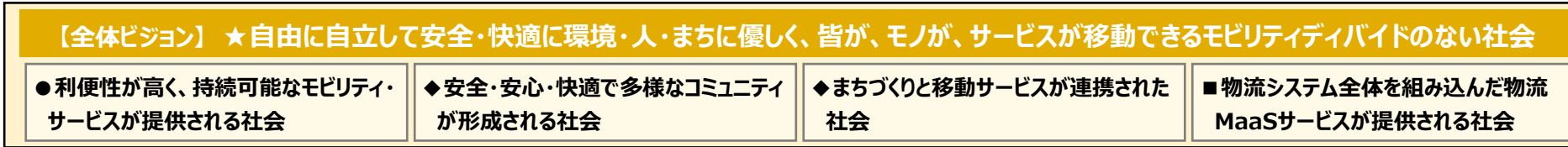
スマートモビリティ・プラットフォームの構築

【サブ課題1】モビリティサービスのリ・デザイン

ナラティブで編まれる地域交通コミュニティ形成と 人材育成プログラム

筑波大コンソ

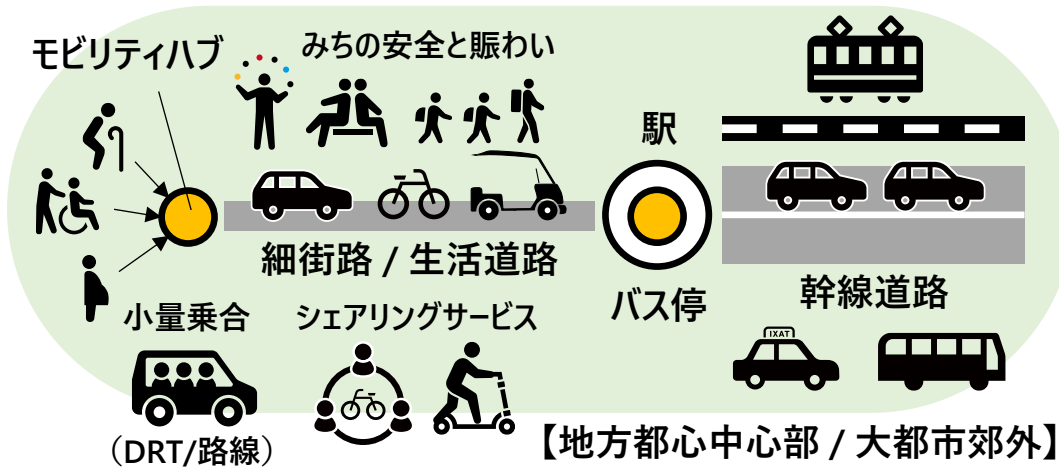
1-1 スマホ全体ビジョンとサブ課題の構成



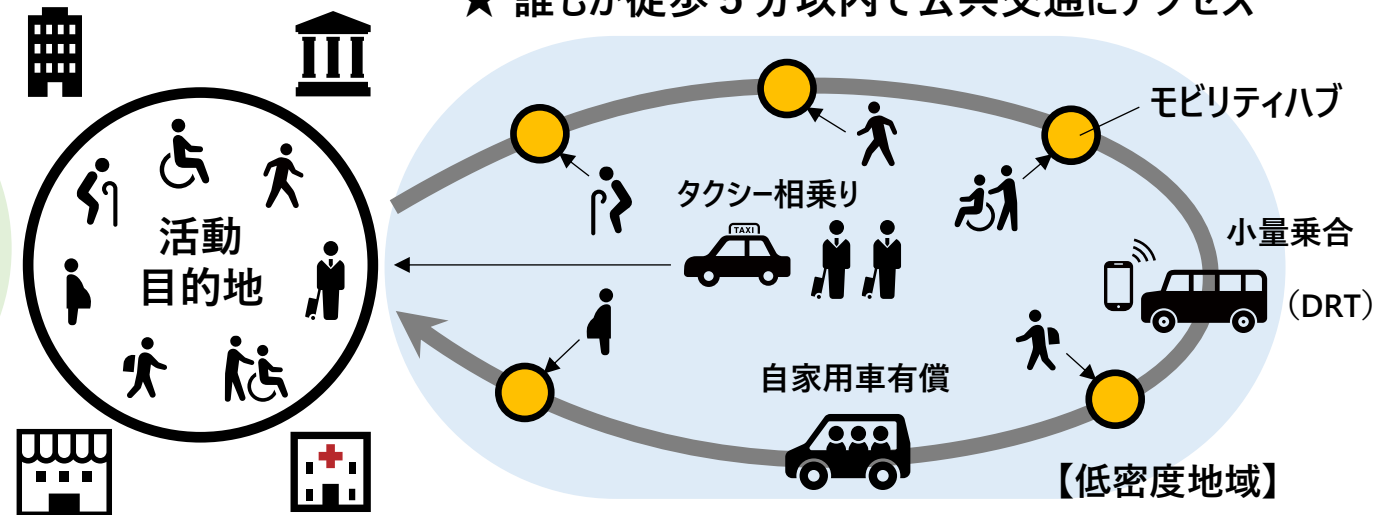
1-2 サブ課題 | 全体のビジョン

- ① 安全で自立的な移動を実現し、**地域の課題解決に資するモビリティ・サービス**の提供
- ② モビリティディバイドのない、**持続可能で賑わいのある地域づくり**への貢献

★ 誰もが安心・安全にゆっくり歩ける空間



★ 誰もが徒歩 5 分以内で公共交通にアクセス



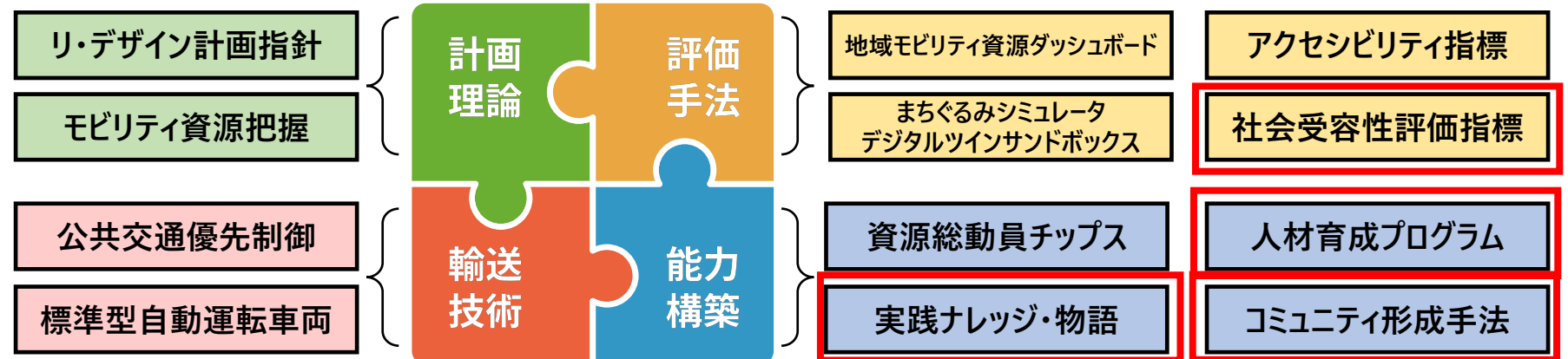
【リ・デザインのプロセス】

診断
戦略
計画

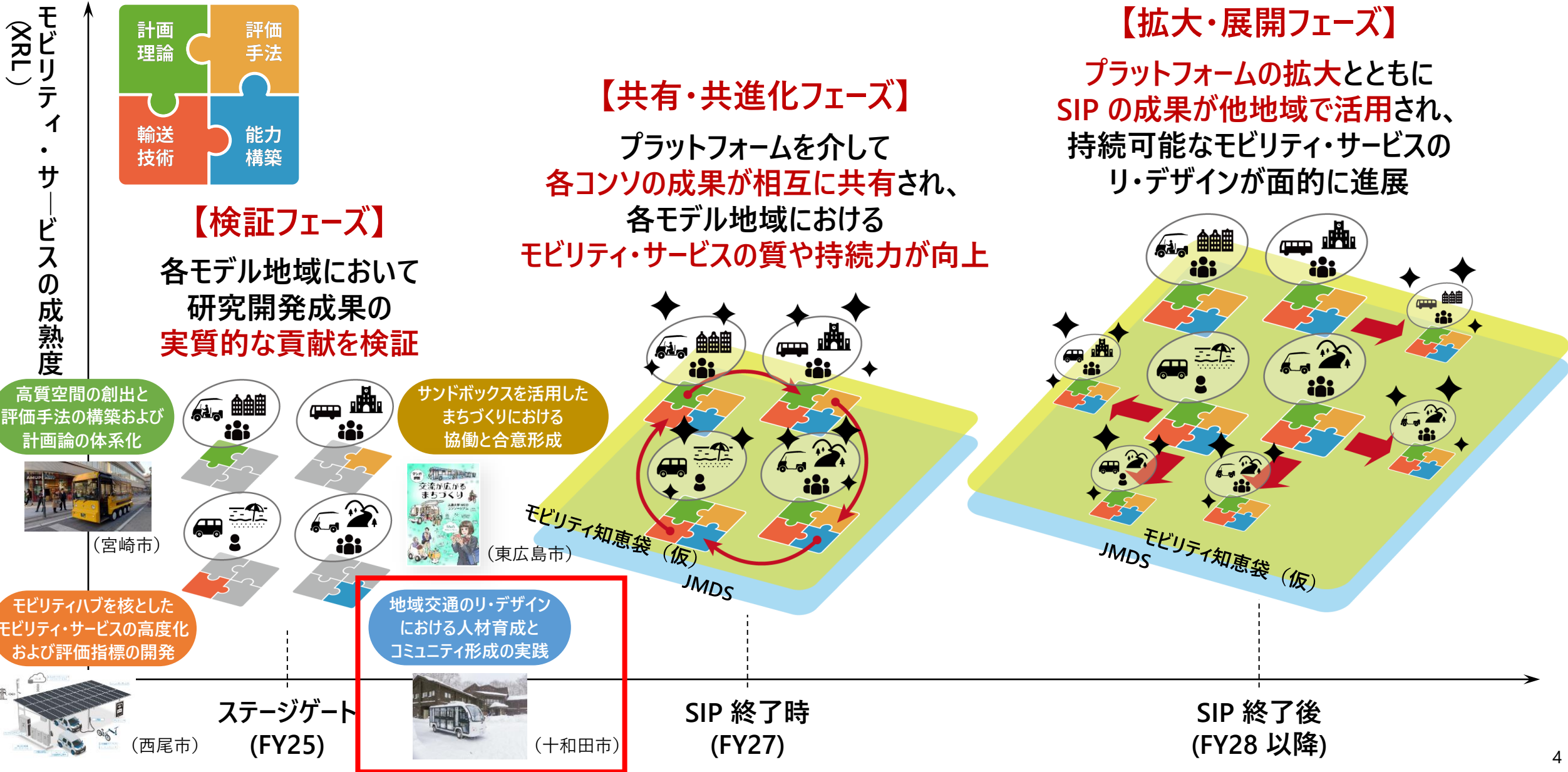
開発
実践
(実験)

実装
運営
評価

ビジョニングとバリデーションの
強化・実質化等

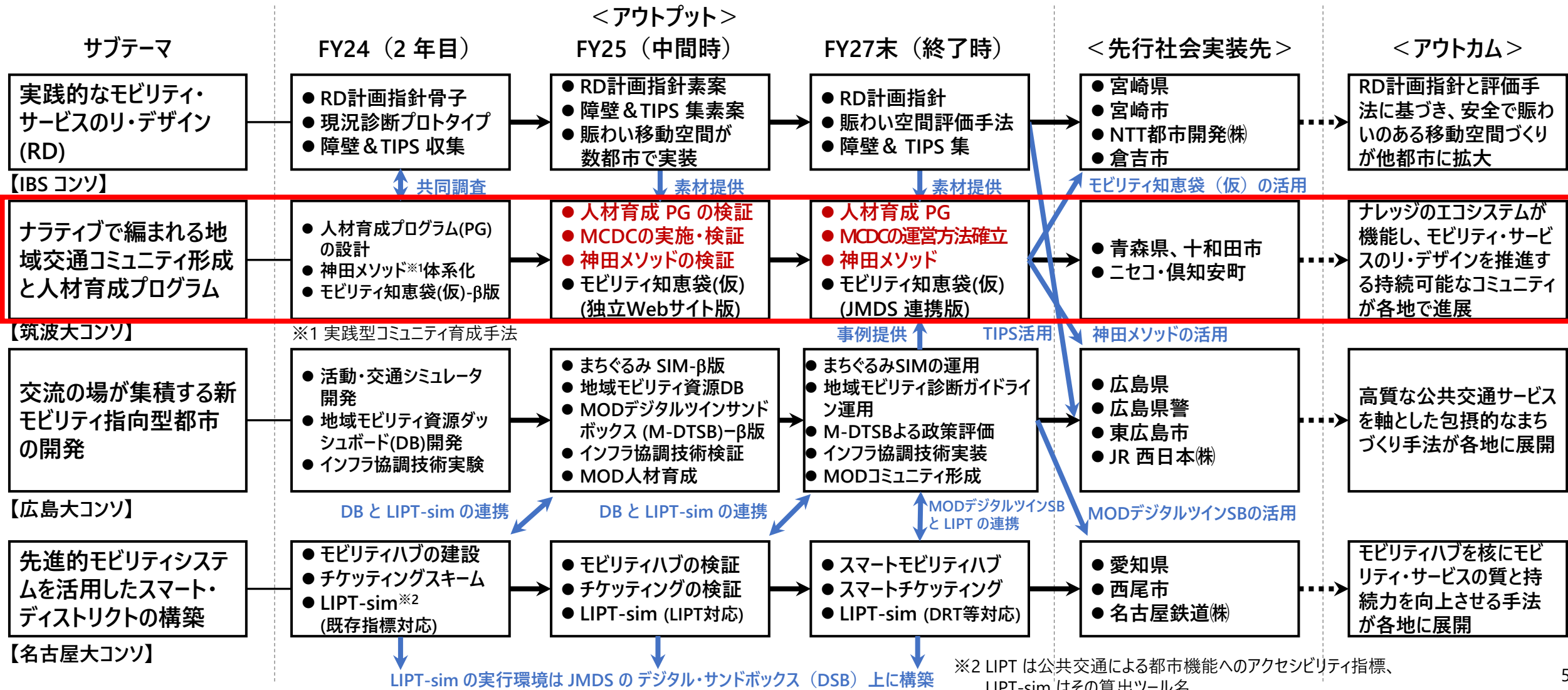


1-3 サブ課題 | 全体の戦略



1-4 サブ課題 I 全体のロードマップ

- 【ビジョン】 ① 安全で自立的な移動を実現し、**地域の課題解決に資するモビリティ・サービスの提供**
 (再掲) ② **モビリティディバイドのない、持続可能で賑わいのある地域づくりへの貢献**



2-1 研究開発の全体構造

研究開発の 全体構造

大テーマ

地域交通の

人材育成 & コミュニティ形成

タスク

人材育成とコミュニティ形成の

仕組みづくり & 社会実装

対象の定義

人材

地域内で活動する個人

(例：庄原商工会議所 本平専務理事)

チーム

同じ目的意識をもって活動する仲間

(例：庄原MaaS検討協議会)

コミュニティ

特定の地域内で活動するステークホルダー

(例：市民・民間事業者・役場・来訪者・外部関係者)

2-1 研究開発の全体構造

個々の事例にコミュニティと人材が存在し、実践知と暗黙知がある

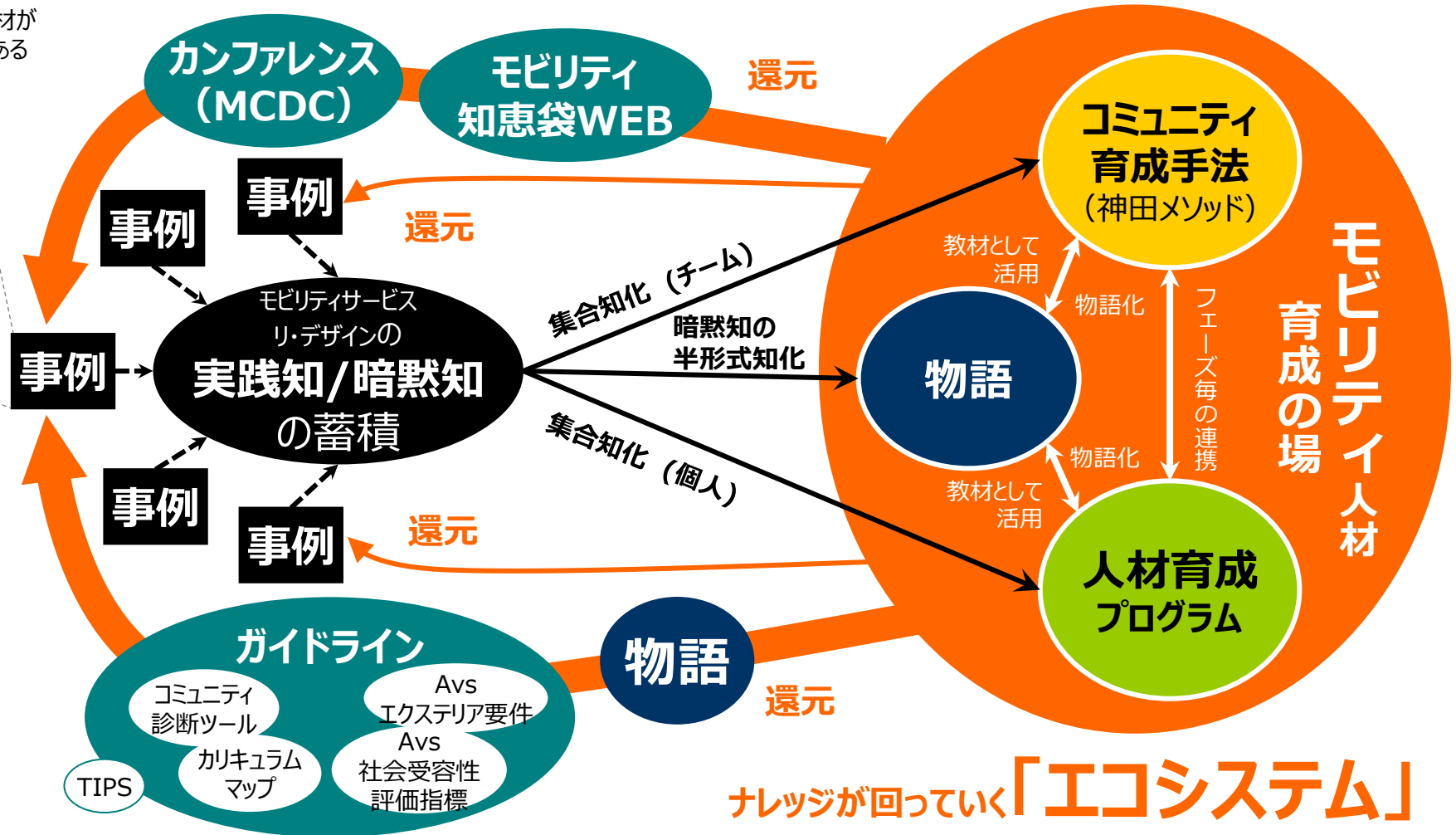


ナレッジの種類と定義

- 1)知識：データ、論理的、無感情■IBS
2)知恵：経験含む、論理、知識をどう使うか●筑波大■IBS
3)物語：感情を伝える、心に訴えかける●筑波大
※別の言い回し例：論理(知恵)、論拠(データ)、情理(物語)

言葉の定義

- 形式知(明示的知識)：「客観的に捉えられる知識」「言葉や数式などの論理的構造で説明できる知識」 データも含まれる。
- 暗黙知：経験や勘といった言語化が難しい主観的な知識：ex)このまちではあの人にお伺いを立てないと、ex)職人技、タクシードライバーが客をつかまえる勘
- 集合知：ある共通の目的達成のために知を蓄積し活用すること、近年はWEBを使った集合知の活用事例が増加、ex)いろんな事例を集めて眺めて共通項を抽出するなど抽象化、一般化、体系化された知識・知恵。
- 実践知：実践の場で適切な判断ができる能力、理論的にうまくいかないことでも、その場の判断でうまくやる能力、ex)アドリブ力、長嶋茂雄、臨機応変なリソース活用能力



2-1 研究開発の全体構造

研究開発の全体構造

< 問題意識 >

< 研究開発 >

< 提供価値 >

コミュニティ 育成

コミュニティの現状分析ができていない

ひとりで学んでもコミュニティを動かせない

01 神田メソッド

02 カンファレンス（MCDC）

コミュニティの成熟フェーズを判別でき適切なアプローチで先に進める

チームで学ぶことでコミュニティ開発を効果的に進めることが可能になる

人材育成

どんな人材が必要かわからない

どのプログラムを受講すべきかわからない

適切な教材やツールを見つけられない

03 地域交通人材像

04 カリキュラムマップ

05 モビリティ知恵袋

コミュニティの成熟段階に応じた適切な人材活用が可能になる

適切なプログラム受講により効果的な人材育成が可能になる

一元化管理共有により教材活用が効率化かつ相乗効果が見られる

コンテンツ 制作

コミュニティ診断ツール

社会受容性評価指標

物語（ナラティブ）

知見を搭載

2-2 各研究開発テーマのロードマップ

● 動かす人・コミュニティに着目したナレッジやエコシステムを構築し、自立的・発展的な地域課題解決を促す環境・土壌を創出



01 神田メソッド

問題意識

コミュニティの現状分析ができていない
(どの成熟フェーズで何に躓いているか)

研究方向性

コミュニティの成長仮説を構築し、
コミュニティ育成の方向性を実践検証
(神田メソッド)

SiPでの開発内容



- ・神田メソッド素案開発（庄原）
- ・他地域での水平展開試行（奥入瀬・ニセコ）

SiPにて
新たに神田メ
ソッドを構築し、
水平展開を
試行中

2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

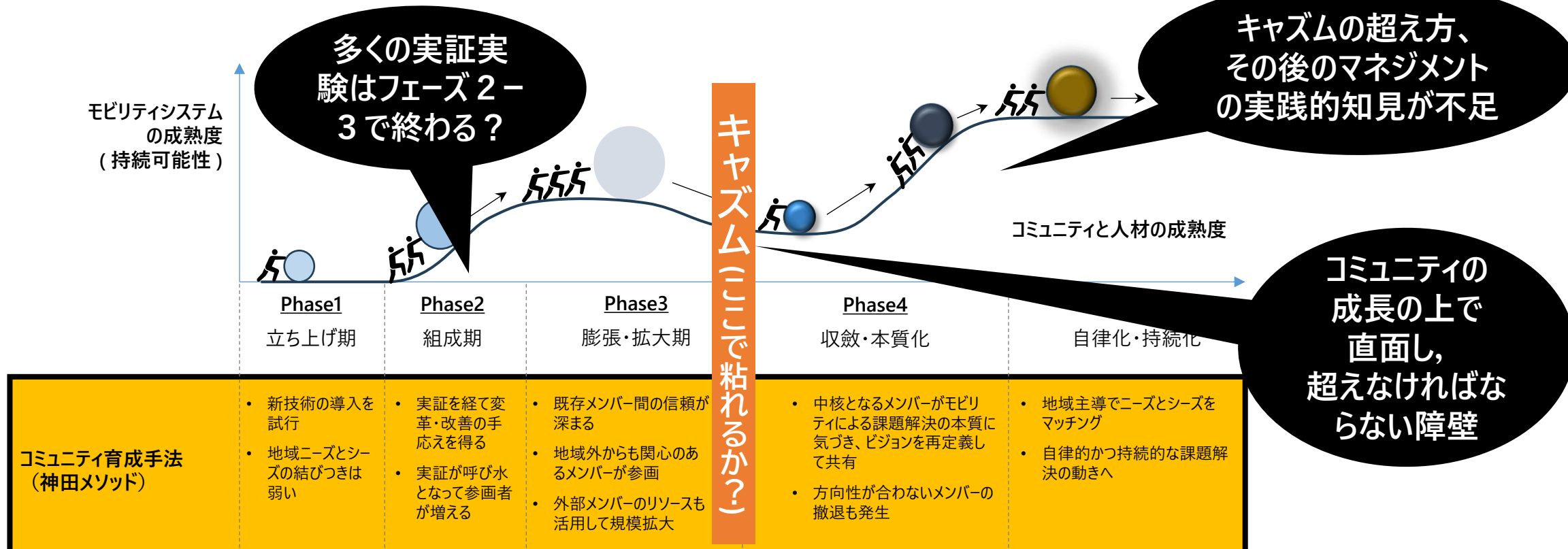
神田メソッド：仮説構築

●モビリティプロジェクトの成長プロセスの仮説

- 地域の課題解決（ニーズ）を解決に導く新たなモビリティ技術（シーズ）の社会実装に向けては、コミュニティの成長プロセスに応じたマネジメントやディレクションが必要となる。
- このプロセスを、これまでのモビリティプロジェクトでの実践や現在進行中のモビリティプロジェクト（プレーヤーとして携わる）をレビューし、SIPプロジェクトで成長仮説を構築

→ステークホルダーの多さから、時期、アプローチが不透明になる時期（キャズム）があり、ここを乗り越えられずに終了するプロジェクトが相当数ある。

→その上で、社会実装に向けて「道標」が重要であり、本成長プロセスは社会実装までの道標を示すもの。



2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

神田メソッド：仮説構築

●広島県・庄原地区でのコミュニティの進展経緯

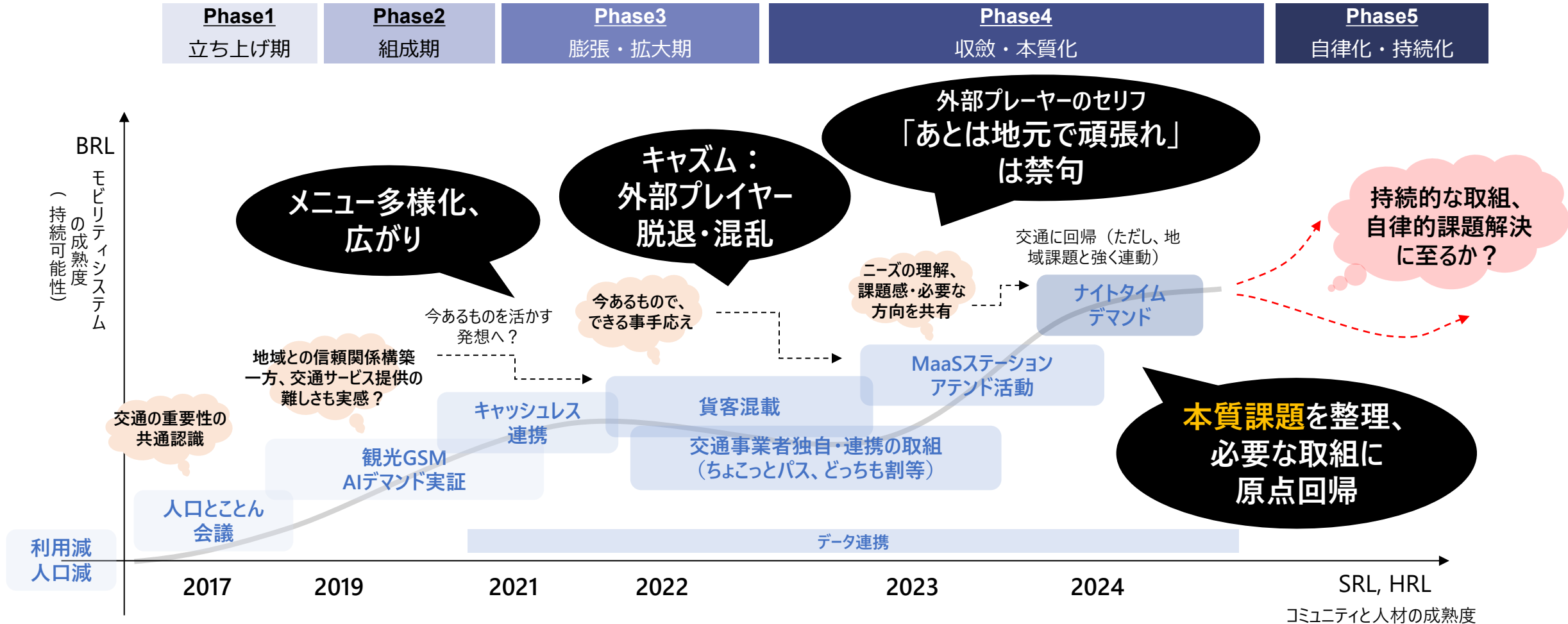
- 既に進行中のプロジェクトにプレイヤーとして主体的に参画し、特に実践知見の蓄積が少ないPhase3～5までのコミュニティ育成手法を実践検証



2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

神田メソッド：仮説構築

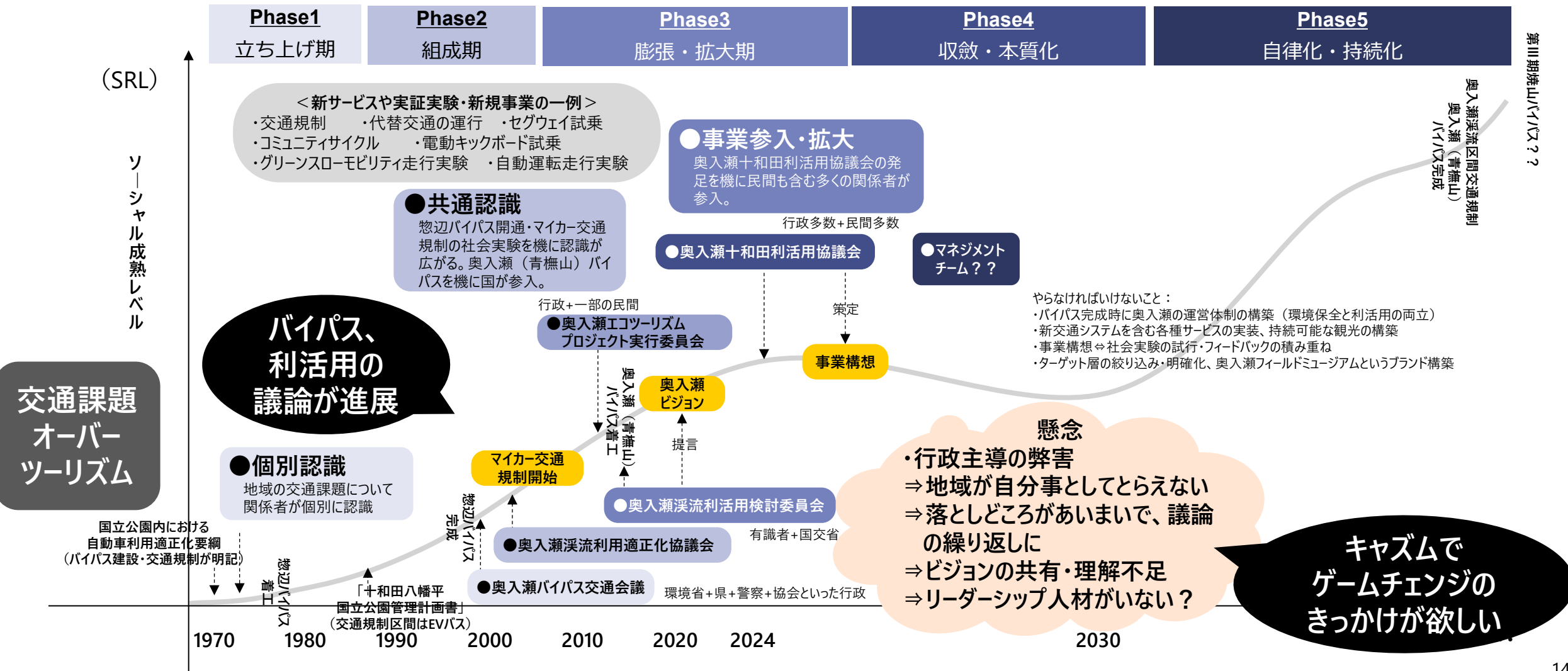
●広島県・庄原地区の経緯整理



2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

神田メソッド：他地域での試行

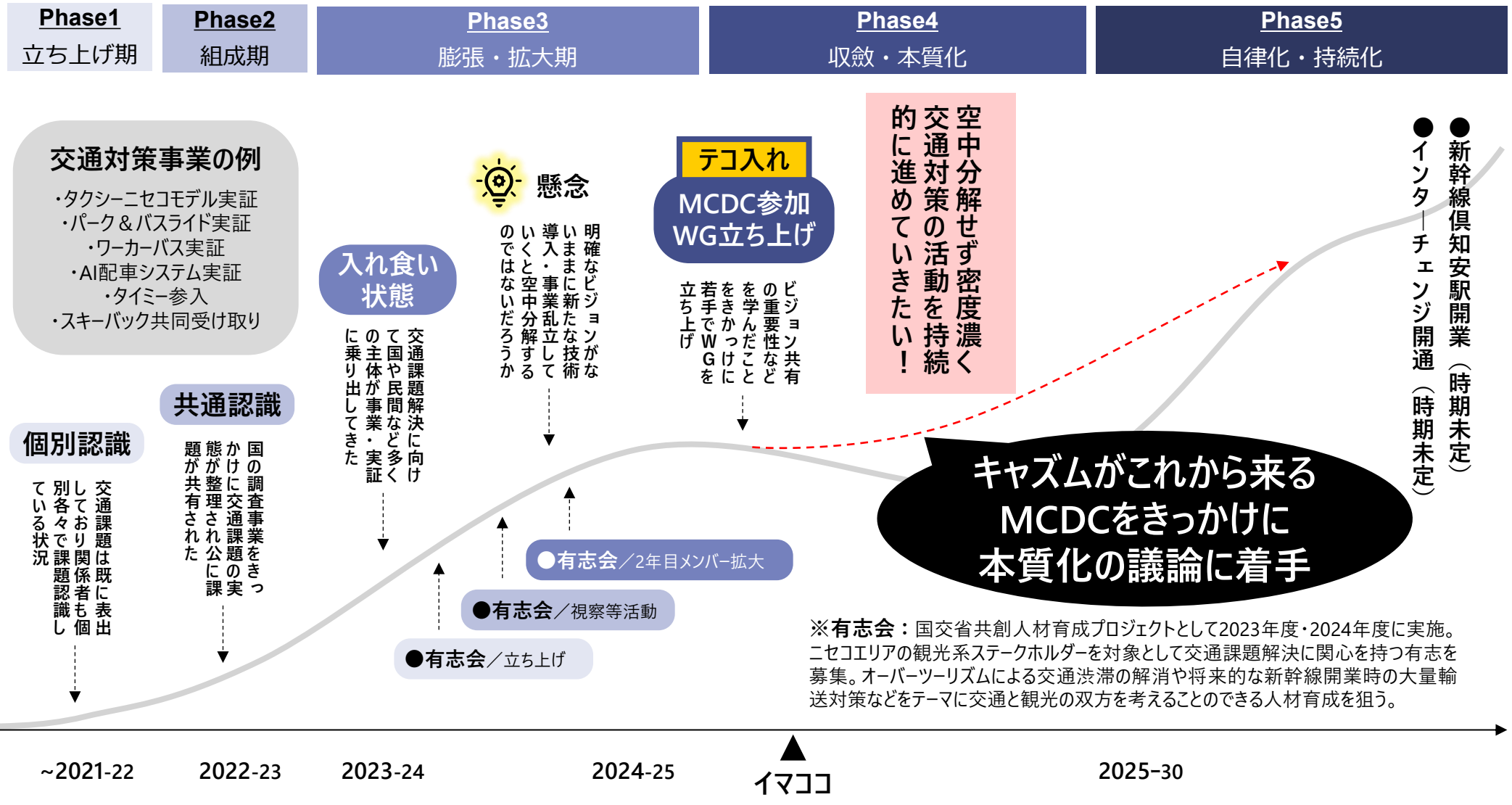
奥入瀬
(長期)



2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

ニセコ
エリア

神田メソッド：他地域での試行



2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

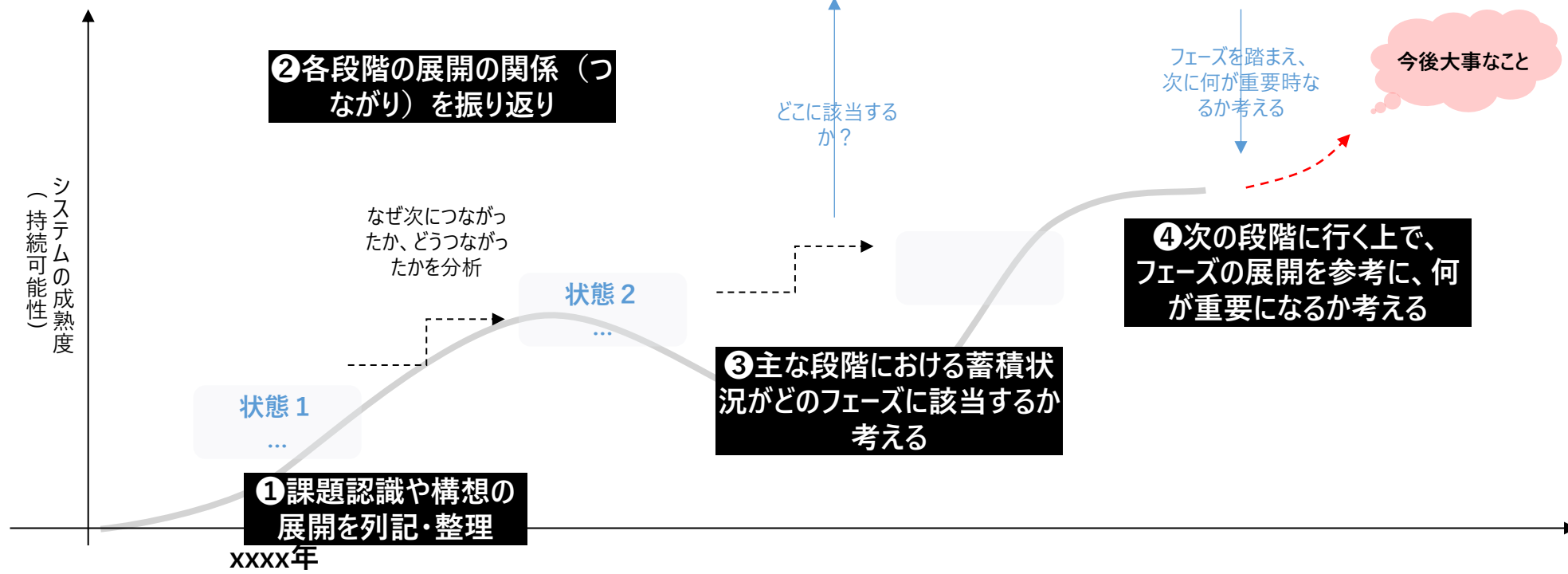
神田メソッド：各段階のポイントの整理イメージ

	概況	HRL		TRL	BRL		GRL	SRL	
		構想チャレ	巻き込み		協力者拡大	企業投資		理解醸成	ブランド形成
Ph1 立ち上げ期	・新技術の導入を試行 ・地域ニーズとシーズの結びつきは弱い	・課題対応、将来イメージを構想 ・実装への大まかな仮説を持つ	・議論、推進の場を作る	・50-60%くらいの対策でやってみる、可視化する	・補助等を探し、とにかく実践	—	・できる範囲に限定して実施	・対象地域への十分な説明	—
Ph2 組成期	・実証を経て変革・改善の手応えを得る ・実証が呼び水となって参画者が増える	・課題への効果、ギャップ分析、調整	・適宜仲間を広げながら議論	・ディテールへ対応 ・粒度アップ、活用技術の適性化	・効果の可視化 ・効果を広く、周知・共有	・ヒアリング、試行等導入の種まき	・国レベルの動きのキャッチアップ ・地域内での新たなルール、仕組みの整理	・結果の周知、共有、 ・地域のニーズを丁寧に聞く、コミュニケーション	・寄与し得る社会課題、価値の検討
Ph3 膨張・拡大期	・既存メンバー間の信頼が深まる ・地域外からも関心のあるメンバーが参画 ・外部メンバーのリソースも活用して規模拡大	・追加的な課題の接続、視野の拡大	・オープンに参加を促す場づくり	・多様な関係者、協力者視点を考慮した形の調整	・協力者の参画の獲得 ・協力者目線での指標化、PR	・ビジネス目線での効果評価、レポート ・PoC、ブランディングとしての参画	・実験的な手法トライアル ・国等との連携、情報共有	・先進性、外部評価FB（マスコミ活用） ・地域からの参を得る	・多様なデータ、視点を踏まえた議論 ・仮説的ブランディング
Ph4 収斂・本質化	・中核となるメンバーがモビリティによる課題解決の本質に気づき、ビジョンを再定義して共有 ・方向性が合わないメンバーの撤退も発生	・ビジョンを具体化、再設定 ・課題の再整理	・コアメンバーで継続、堅実議論	・本質に応じた、個別技術のTRANSFORM、再編成	・協力者の課題、ビジネスに資する連携具体化	・地域側とビジネス側に相乗的な連携バランスの創出	・（必要に応じ）国等との協議、調整 ・必要な仕組みの具現化、実装化	・深くコミットする地域メンバー ・地域文化として醸成される	・訴求する社会価値軸の明確化
Ph5 自律化・継続化	・地域主導でニーズとシーズをマッチング ・自律的かつ持続的な課題解決の動きへ	・構想の具体化、定着化 ・応用的活用	・安定的な組織運営×高次元連携	・地域による技術の使いこなし、無駄を省いた運用 ・他分野への応用	・自発的な連携の発生	・安定的支援 ・バランスのある、新たな価値創出	・制度の使いこなし、有効活用 ・新たなチャレンジ	・地域の主体的、継続的な参画	・価値軸に沿ったブランド形成 ・次の価値創出

2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

神田メソッド：コミュニティ分析ツール作成

	Phase1 立ち上げ期	Phase2 組成期	Phase3 膨張・拡大期	Phase4 ? 収斂・本質化	Phase5 ? 自律化・持続化
	- 新技術の導入を試行 - 地域ニーズとシーズの結びつきは弱い	- 実証を経て変革・改善の手応えを得る - 実証が呼び水となって参画者が増える	- 既存メンバー間の信頼が深まる - 地域外からも関心のあるメンバーが参画 - 外部メンバーのリソースも活用して規模拡大	- 中核となるメンバーがモビリティによる課題解決の本質に気づき、ビジョンを再定義して共有 - 方向性が合わないメンバーの撤退も発生	- 地域主導でニーズとシーズをマッチング - 自律的かつ持続的な課題解決の動きへ
HRL	- 課題対応、将来イメージを構想 - 実装への大まかな仮説を持つ	課題への効果、ギャップ分析、調整	追加的な課題の接続、視野の拡大	- ビジョンを具体化、再設定 - 課題の再整理	- 構想の具体化、定着化 - 応用的活用



02 カンファレンス < MCDC* >

問題意識

ひとりで学んで持ち帰っても
コミュニティを動かすことが困難

研究方向性

コミュニティを効果的に育成するために
複数人・組織横断で受講する
チームビルディングプログラムの開発

SiPでの開発内容

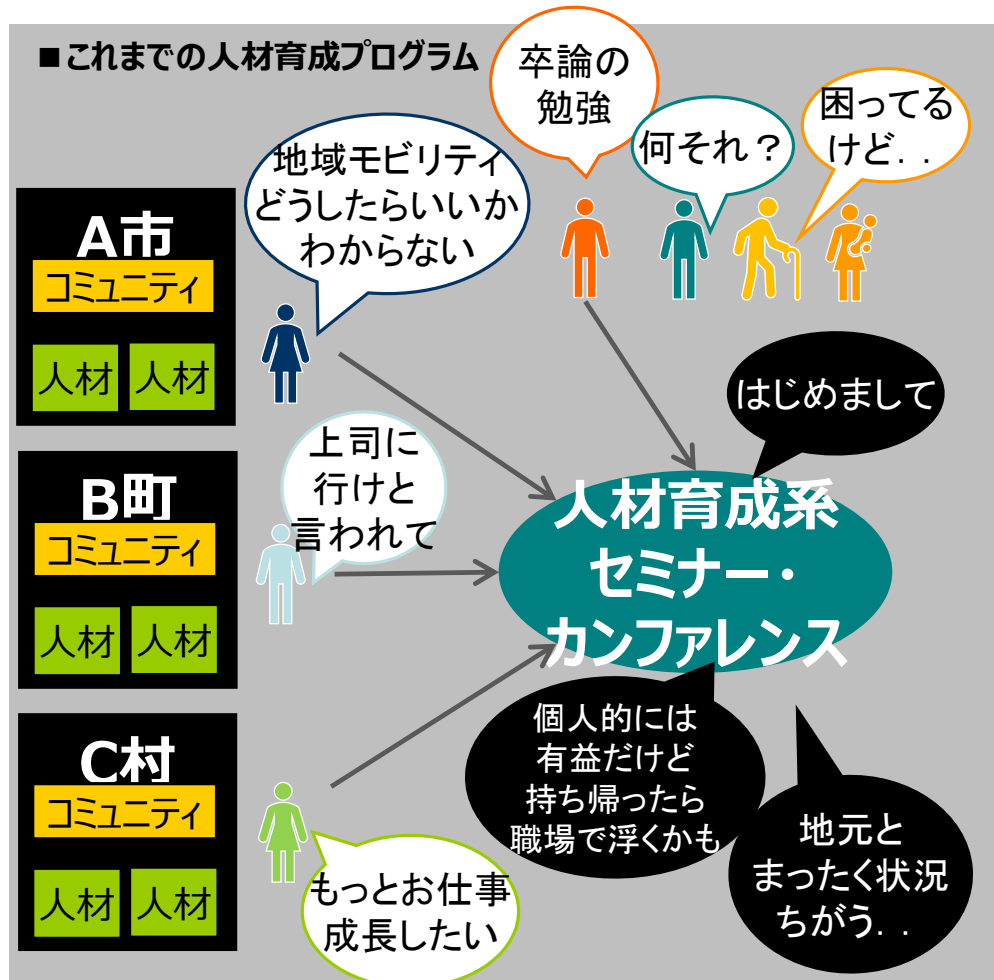


- ・MCDCの試行と検証
- ・次年度MCDCの企画検討

SiPにて
新たにMCDCを
企画・開発

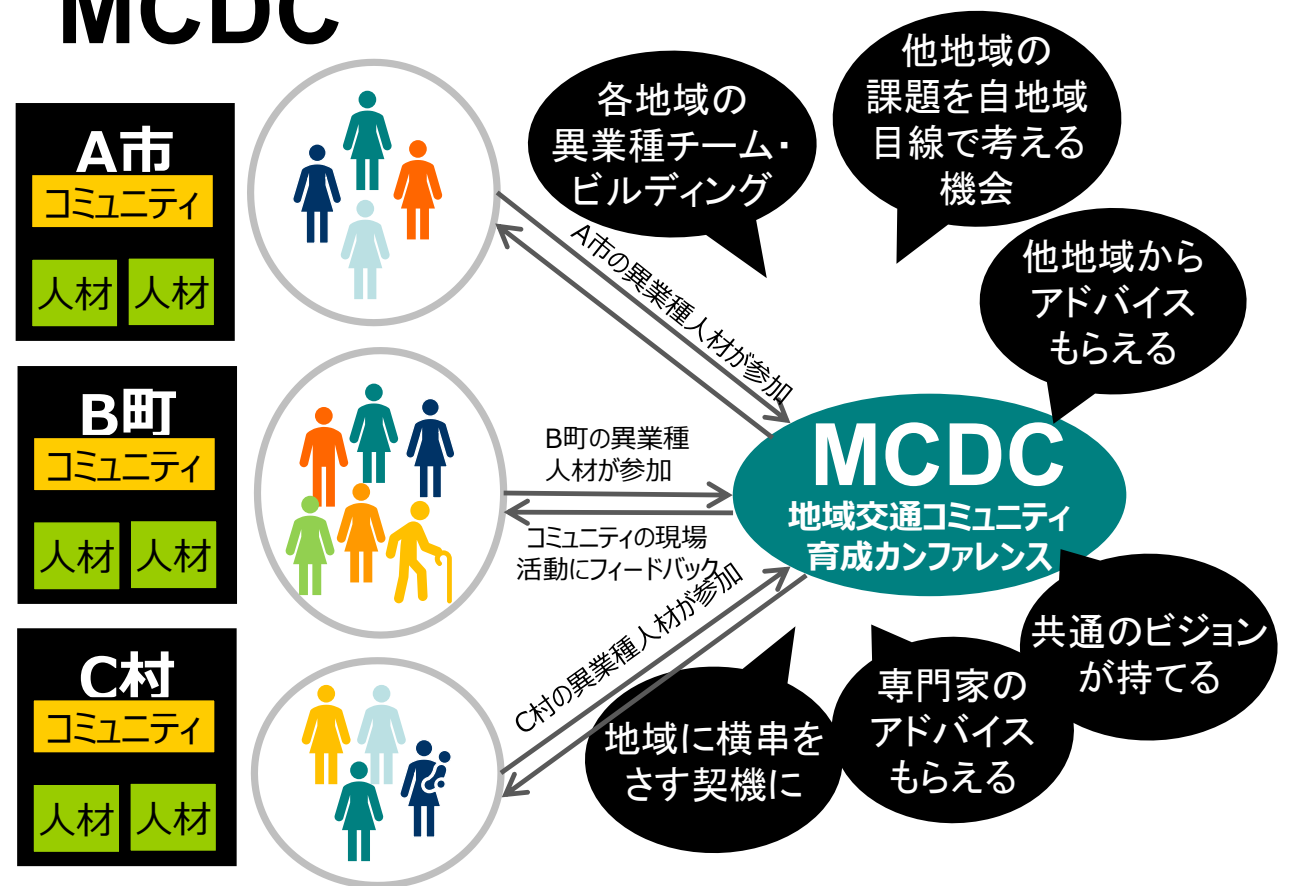
2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC



MCDC

■ Mobility Community Development Conference



これまでにない「コミュニティ育成イベント」

例：交通系自治体職員、観光系自治体職員、福祉健康系自治体職員、交通事業者、地域の商店主、住民、学生

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC

点から線へ 線から円へ

地域交通に係る様々な“個人”が
同じ地域の“関係者たち”とともに参加してともに学ぶことで、
課題解決に向けた“チーム”へと成長していく学習の場。
それがMCDC*です。



点



線



円

※ 1 地域 1 チームで参加する

同じ地域で地域交通に係っている
異なる立場の関係者複数人でご参加いただきます。
3～5名程度での参加を推奨します。

* : Mobility Community Development Conference



MCDCとは
地域交通に係る様々な個人が同じ地域の関係者たちと
一緒に参加して一緒に学んで意識共有を図ることで
地域の課題解決・ゴールを目指す「チーム」へ成長する学習の場

MCDC 地域の交通を
みんなで考えるカンファレンス
2025 in SAPPORO
The Mobility Community Development Conference

- ▶ 開催日程：2025年9月11日(THU)～9月14日(SUN)
- ▶ 開催場所：北海道札幌市
- ▶ 参加方法：完全推薦制（本年度は一般公募は行いません）
- ▶ 参加条件：同地域の異業種複数人チーム（原則3～5人）
- ▶ 主催：筑波大学ナラティブコンソーシアム
※正式名称：「ナラティブを軸とした地域交通コミュニティ形成と人材育成プログラムの研究開発」コンソーシアム
- ▶ 共催：一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議

[プログラム](#) ・ [中面見聞き](#) [その他](#) ・ [裏面](#)

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期 スマートモビリティプラットフォームの構築

令和7年9月11日（木）～ 9月14日（日）
札幌市において開催

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC

MCDC札幌の開催概要

基本情報	開催日程	2025年9月11日(木)～9月14日(日)	
	開催場所	北海道札幌市	
	参加方法	完全推薦制	
	参加条件	同地域の異業種複数人チーム(原則 3 ～ 5 人)	
	主催	筑波大学ナラティブコンソーシアム ※正式名称：「ナラティブで編まれる地域交通コミュニティ形成と人材育成プログラムの研究開発」コンソーシアム	
	共催	一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議	
実施内容	Day1	①インプットトーク ③チームトーク ②チームワーキング ④イブニングトーク	
	Day2/3	第20回日本モビリティ・マネジメント会議参加	
	Day4	①チームディスカッション ②プレゼンテーション	

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC

Day01



2025.09.11.thu 13:30～



TKP札幌駅カンファレンスセンター 3 階



● 開場・受付開始 (13:00～)

● オープニング (13:30-14:00)

- 1330 開会挨拶／筑波大学 教授 谷口綾子
- 1335 参加チーム紹介
- 1350 趣旨説明／呉工業高等専門学校 教授 神田佑亮

● インプットトーク (14:00-15:00)

- 1400 シェアサイクル事業「ポロクル」と札幌都心のまちづくり～豊かな人間環境の創造に向けて～
／株式会社ドーコン 取締役常務執行役員 交通事業本部長 澤充隆氏
- 1425 よそのもの、わかもの、ばかものと拓く地域の未来
／西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本) 中国統括本部 経営企画部 課長 内藤真也氏
- 1450 休憩・部屋移動

● チームワーキング (15:00-16:00) ※2ルームに分かれて活動

- 1500 チームワーキング／インプットトークテーマについてチームで話し合ってみよう
 - ルームB：ドーコン澤充隆氏の発表事例について
 - ルームD：西日本鉄道内藤真也氏の発表事例について

● チームトーク (16:00-18:00) ※2ルームに分かれて活動

- 1600 チームトーク／自身のチームの成長過程や目指すべきビジョンについて話し合しましょう
- 1700 チーム発表／チームトークで整理した内容を発表しましょう
- 1720 JCOMMプログラム紹介
- 1730 JCOMM行動プラン作成／聴講するプログラム・ポスターなどチームでの行動を計画しましょう
- 1750 休憩・移動

● イブニングトーク (18:00-20:45)

- 1800 乾杯
- 1900 ステージトーク／参加者らによる本音トークと質疑応答のフリータイム
- 2045 中締め

Day02-03



2025.09.12.fri～09.13.sat



札幌コンベンションセンター



● 第20回日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM) 参加

- ・主 催／一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議
- ・内 容／2 日間にわたり、全国のモビリティ・マネジメント事例がセッションやポスターで発表される
MCDCとしてはチームの行動プランに基づいてセッション聴講やネットワーキングを実施していただき、地域課題解決に向けて参考になる事例やポイントについてノウハウを収集し取りまとめてください
※MCDCとは異なる会議への参加となります。「事前申込」及び「参加費支払い」が必要です。
※12日のJCOMM意見交換会（懇親会）に参加の方は各自ご負担ください。
→詳しくはJCOMMホームページをご参照ください <https://www.jcomm.or.jp/> 【検索：JCOMM】

Day04



2025.09.14.sun 09:00～



TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通 5 階



● 開場・受付開始 (08:45～)

● オープニング (09:00-09:25)

- 0900 これまでの振り返り・JCOMM感想発表／各チーム2分程度

● チームディスカッション (09:25-11:00)

- 0925 本日のタスク説明
- 0930 チームディスカッション／課題・ビジョン・現在地・不足要素・アクションプラン等について議論しましょう
- 1100 昼休憩（弁当配布）

● プレゼンテーション (12:00-13:50)

- 1200 ショットガントーク／各チームよりディスカッション内容を取りまとめて発表していただきます
- 1245 休憩／投票／参考になったチームの発表を選んで投票していただきます
- 1300 質疑応答／発表内容に関する質疑応答の時間です

● クロージング (13:50-14:00)

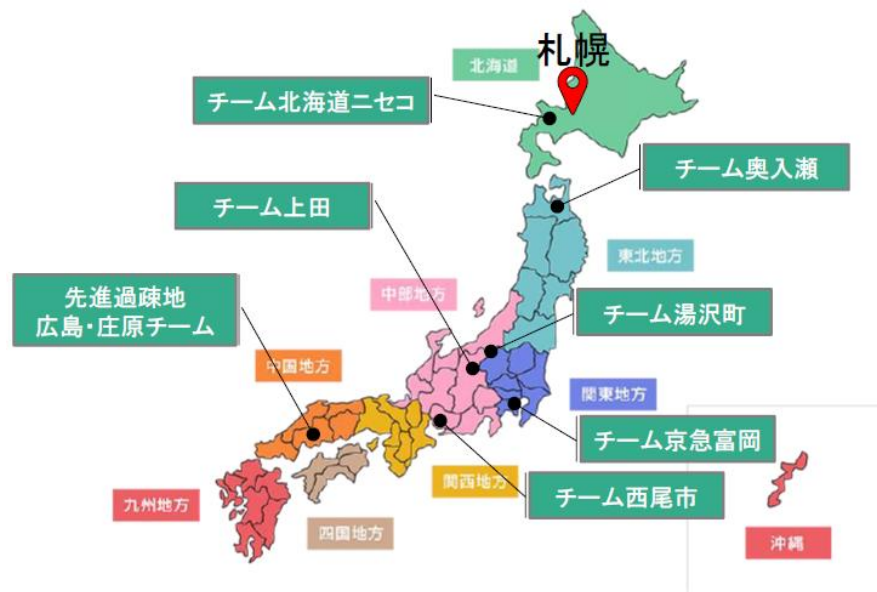
- 1350 総評／筑波大学 名誉教授 石田東生氏 (SIP第3期／プログラムディレクター)
- 1400 閉 会

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC

- 2025年は全国から7(+1)チームが参加
- 自らの地域の課題やビジョンを踏まえたアクションプランについて議論

●参加チーム



チーム北海道ニセコ



先進過疎地
広島・庄原チーム



チーム湯沢町



チーム西尾市



チーム上田



チーム奥入瀬



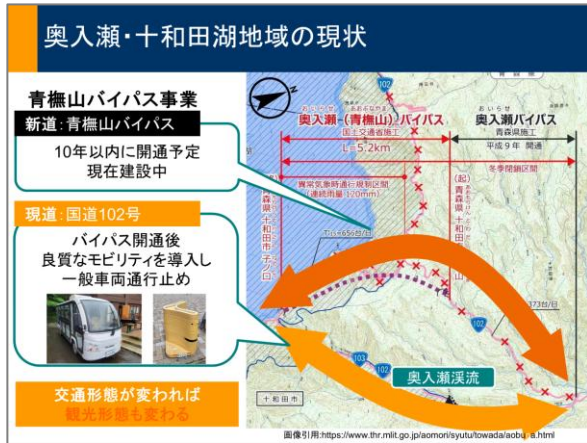
チーム京急富岡



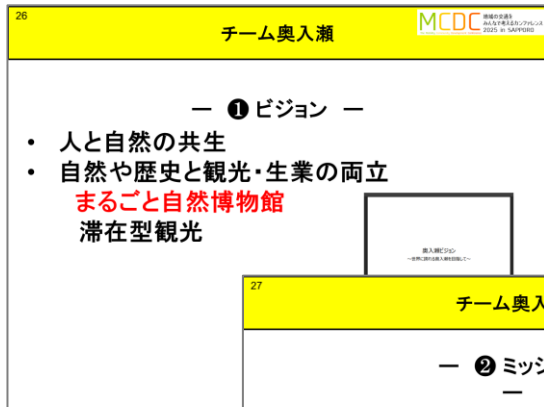
スマモビチーム※特別枠

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

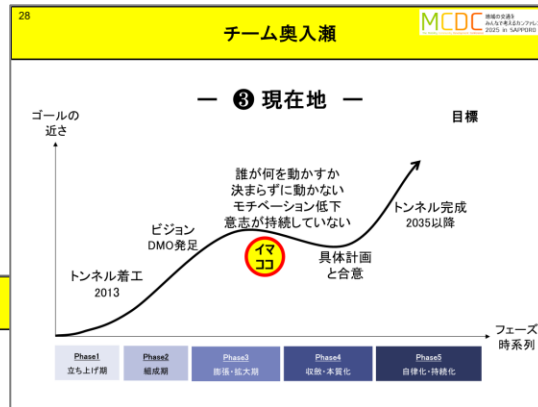
全国カンファレンス：MCDC



地域の現状・課題を踏まえ、ビジョン・ミッション・現在地・不足要素・アクションプランを議論

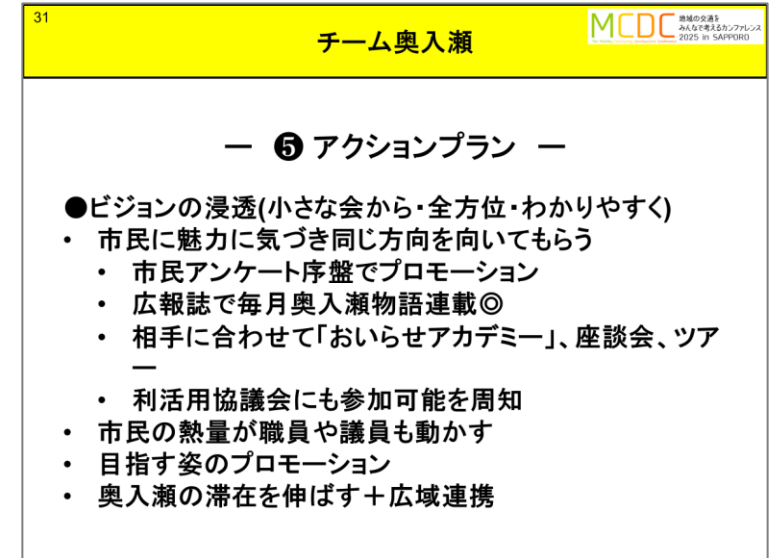
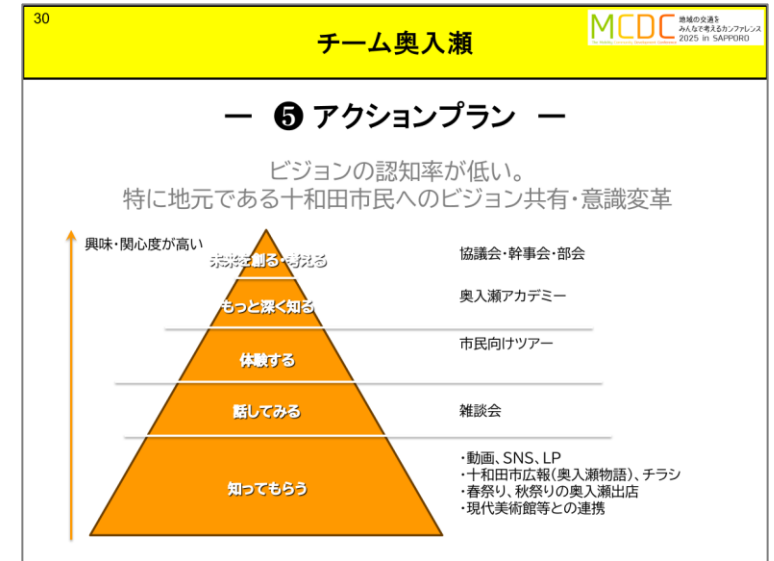


新たな交通システムの構築で
持続可能な観光地域づくり



④ 不足要素

- 市民に魅力(今・これから)が共有されていない
- 関係者の当事者意識・モチベーション不足
- ビジョンの理解度のばらつき、浸透の欠如
- 十和田市の主体性不足、イニシアチブ
- ステークホルダーの合意形成



2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDCの効果（チームメンバーの変化・変化要因 【奥入瀬チーム】）



十和田市役所
職員

普段の議会の感じと変わらない。でも**本音**のところ意見交換はできたし、仲良く・喋りやすくなった
(自分もMCDCの中だったのでいろいろな**素直な発言**はした)

本音



ネイチャーガイド

毎日、一緒に行動することによって、互いの**パーソナリティ**が分かって来ました。徐々に奥入瀬の将来について何をすべきか？という**意見**や**個々の想い**が出やすい**雰囲気**になってきた

キーマンの
登場



ネイチャーガイド



DMO職員

元青森県職員が登場して軸というか、みんな元青森県職員の聞く場面が増えたのが明らかにあった

途中で**元青森県職員が合流**し、戦略的な視点や発言が増えることで、**チームの積極性が増した**



元青森県庁職員



DMO職員

JCOMMを経て、皆さん各々
ヒントを拾ってきて、未来に向けた
ポジティブな意見が全体的に増えた

JCOMMでの
学び

04 カリキュラム マップ

問題意識

どんなプログラムを受講すべきかわからない
(どのレベルの人は何を受けるべきか?)

研究方向性

地域交通人材のペルソナ・レベル別に
適切な教育カリキュラムマップを構築

SiPでの開発内容



- ・既存プログラム研究の効果
分類・体系的に整理
- ・カリキュラムマップ素案構築

SiPにて
プログラムの分類を
行い、カリキュラム
マップを検討

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：育成団体調査

● 育成団体調査

調査対象プログラム

- ✓ 下記のA), B)のいずれかを満たす取組み（プログラム・イベント）をHP上で探索的かつ継続的に収集した。
- ✓ A) 地域公共交通をテーマに、定期的を開催・実施されている
- ✓ B) (地域公共交通より広い分類の) 都市交通計画をテーマに、定期的を開催・実施されていて、地域公共交通をテーマとする回や科目等がある

調査項目

- ✓ 実施されている人材育成事業のプログラムの数と名称
- ✓ 収入：受講料計、公的資金（行政予算、補助金）、民間資金（賛助会員等）、その他
- ✓ 支出：講師謝金、会場費、その他備品、広報費、事務人件費、その他
- ✓ 人材育成事業に関する課題・お困り事
- ✓ 実施されてるプログラム毎に：セミナー名、目的・対象、プログラム（時間割・講師等）、開催日数、実施時期、定員、受講料、開講年

			開催時期	開催期間	参加費	内容
モチベーションアップ・維持	1	JCOMM	8月	2日	¥3,000	MM関係者が一堂に会した情報共有・意見交換
	2	(公社) 日本交通計画協会 [エッセンシャル・セミナー]	不定期	2～3時間	無料	交通計画に関するトピックを講義形式で
	3	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム	10月	2日	¥3,000	くらしの足に関する課題解決のヒントを得る場
	4	人と環境にやさしい交通をめざす協議会	不定期	1日	¥2,000	相互理解と問題意識の共有を目的とした場
	5	エコモ財団 EST創発セミナー	5月、11月	1日	無料	ESTの実現に向けて講演・パネルディスカッション
	6	IBS MM技術講習	10月	2日	¥12,000	モビリティ・マネジメントの技術講習
	7	再生塾 [基礎編]	5月	1日	¥4,000	持続可能なまちと交通を目指した1dayセミナー
	8	Qサポ	不定期	1日	¥1,000	地域公共交通に関する自由な意見交換
	9	コモゴモ	不定期	1日	¥2,000	他分野の専門家のモビリティ分野への越境を促す
	10	地域交通のキソを学ぶ合宿式セミナー	不定期	2日	無料	明日から何かを始めてみようという気になるセミナー
知識獲得	11	運輸局セミナー	年1～2回	1日	無料	運輸分野における補助制度などの知識を講義
	12	JCoMaaS	通年	2時間	¥150,000	産官学におけるMaaSに関する知の共有
	13	再生塾 [イブニングセミナー]	不定期	2時間	無料	モビリティに関する様々な話題を紹介
	14	再生塾 [技術セミナー]	9月	1日	¥10,000	地域公共交通政策立案のためのデータ分析
	15	再生塾 [議員セミナー]	8月等	1日	¥20,000	地方議員を対象とした地域公共交通政策セミナー
	16	国土交通大学校	8月等	数日	無料?	国道交通省の総合的な研修機関
	17	全国建設研修センター	4月、11月	数日	7万円程度	行政担当者を対象としたテーマ別セミナー
じっくり議論	18	公共交通マーケティング研究会	不定期	数時間		公共交通の課題にコミットする企業・団体を適用
	19	地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト	10～1月	190分×8回	無料	
	20	エコモ財団 地域の交通環境対策推進者養成研修会	9月	3日	¥5,000	
	21	再生塾 [アドバンスドコース]	8～12月	5日	¥20,000	
みんなで議論	22	MCDC	年1回	2日	無料	

既存の人材育成プログラムを抽出・レビュー

既存の人材育成
プログラムを
抽出・レビュー

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：個人の状況に応じた推奨プログラムの判定

STEP 1：質問項目への回答



1	ご職業は？
2	経験年数は？（初級・中級・上級）
3	知識不足を感じますか？
4	座学か参加型（ワークショップ）のどちらが良いですか？
5	じっくり議論がしたいですか？
6	組織横断的なチームとして参加可能ですか？
7	モビリティ・マネジメントを学びたいですか？
8	九州在住ですか？
9	平日の研修のための日程・予算を確保できますか？
10	8～12月の5ヶ月間、平均5時間/週程度の時間を捻出できますか？

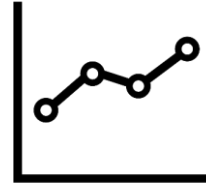
【イメージ】

地域公共交通のリ・デザイン 予算事業名関連タグ逆引き検索



<https://www.mlit.go.jp/redesign/budget/>

STEP2：スコア化



- 各設問の回答により、「加点」「除外」を各プログラムに付与。
- 高得点のプログラムを推奨

STEP3：推奨プログラムの判定



例)

- ✓ 「経験年数が少なく」「知識不足を感じる」「行政職員」「平日の研修のための日程・予算を確保できる」

あなたには、「**国土交通大学校**」が、お薦め

- ✓ 「組織横断的なチームとして参加可能」で「じっくり議論がしたい」

あなたには、「**MCDC**」が、お薦め

質問の回答を踏まえて、
既存人材育成プログラム
の中から推奨プログラム
を判定

05

モビリティ知恵袋 (WEBプラットフォーム)

問題意識

適切な教材やツールを見つけられない
(情報一元化や紹介する仕組みが必要)

研究方向性

学習に活用可能な教材・ツール等を
一元管理・共有できるWEBプラットフォーム
を構築

SiPでの開発内容



- ・WEBページを構築
- ・搭載する教材・ツール等を制作、収集（随時）

SiPにて
新たにWebサイトを
構築、発信中

2-2 研究開発の進捗／ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：Webサイト運用中（ナレッジ蓄積中）



① 知ろう・調べよう・楽しもう

- 世界Mobility News 【稼働中】
- 総動員チップス（国外編）【稼働中】 ※IBSコンソ連携
- 総動員チップス（国内編）【稼働中】 ※IBSコンソ連携
- モビリティの導入改善やMMの参考となる図書・論文【稼働中】

② 物語を感じて、新たな物語を生み出そう

- 人物にまつわる物語 【稼働中】
- 地域モビリティ物語 【稼働中】

③ ツールを使い実践してみよう

- Mobility Managementツール【稼働中】

④ 学ぼう、伝えよう、繋ごう

- セミナー・イベント情報 【稼働中】

2-2 研究開発の進捗／ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

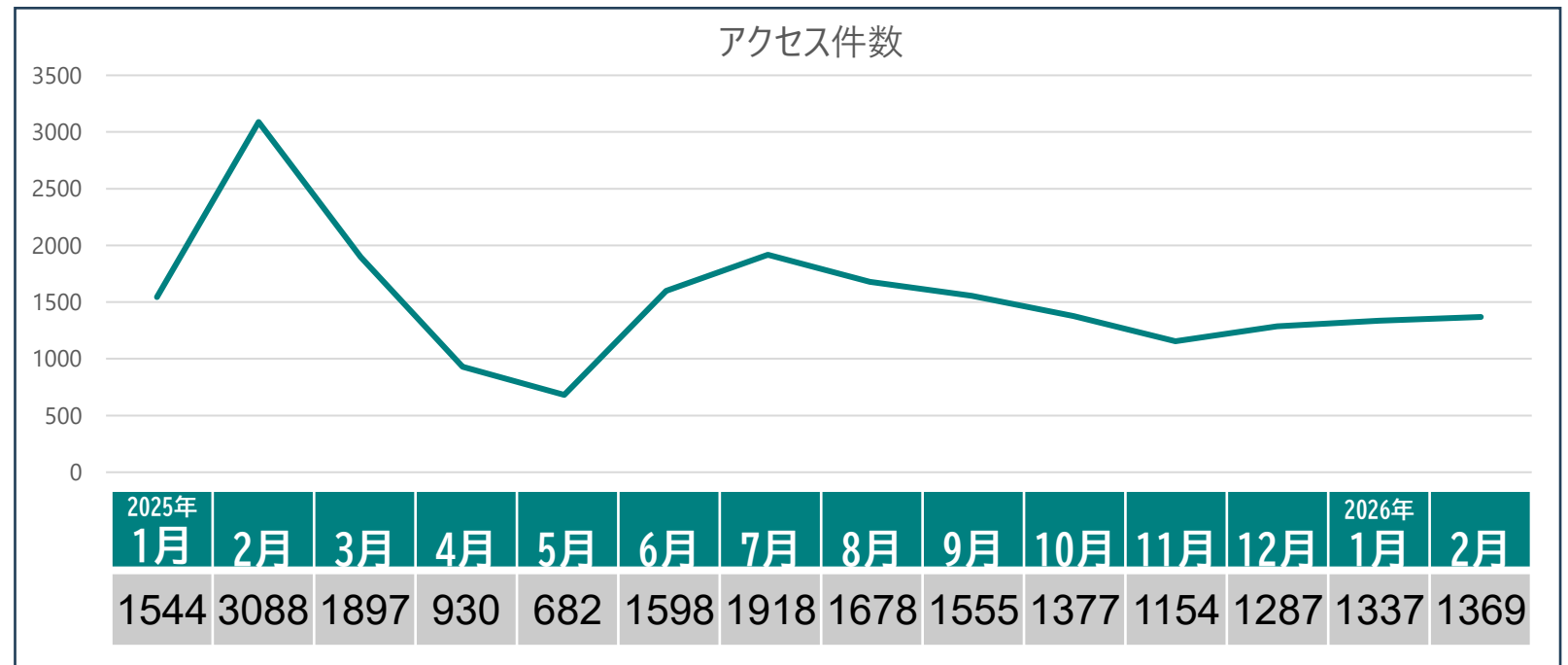
モビリティ知恵袋：Webサイト運用中（ナレッジ蓄積中）

●2025年度実績 55件Webページの構築

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・世界モビリティニュース 11件 ・地域での物語 2件 ・総動員チップス（国外編） 25件 ※IBSコンソ連携 | <ul style="list-style-type: none"> 人物にまつわる物語 3件 総動員チップス（国内編） 2件 ※IBSコンソ連携 モビリティ・マネジメントに関する図書・論文 12件 |
|---|--|

●Webサイトアクセス数

- WebサイトOPEN
 - 2024/12/31
- PV数:21,414（～2026年2月末）
 - 月平均 約1,530



2-2 研究開発の進捗／ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：Webサイト運用中（ナレッジ蓄積中）

●追加したWebページの一例

世界モビリティニュース 2026年1月



ソウル：58年ぶりにソウルにトラム復活…「慰礼線」2月試運転開始へ



www.afpb.com

58年ぶりにソウルにトラム復活…「慰礼線」2月試運転開始へ

中国：中国の中心都市、デマンド型バス路線が1万1000本以上に



www.recordchina.co.jp

中国の中心都市、デマンド型バス路線が1万1000本以上に

中国交通運輸部はこのほど、中国の国・地域の中心都市における2025年時点でのデマンド型交通バス路線の運行状況を発表しました。

ローマ：ローマ、中心部での制限時速を30キロに引き下げ | ロイター

●世界Mobility News

環状ネットワークを結ぶ新たなリ・デザインの挑戦〜ロンドンのスーパーloop〜



背景

ロンドンでバスや地下鉄を運行するTfL（Transport for London; ロンドン交通局）はロンドンのバスについて、速達性よりも高頻度での運行を重視しており、停留所を通過する速達サービスの導入には慎重でしたが、一方で複数路線同士の運行区間の重複は減らしたいと考えていました。こうした中で、鉄道のない郊外において、鉄道駅や大病院に接続する新たなバス路線を開通することで、従来のバスよりも早く、またクルマよりも安く移動できるようにする取組が進められています。2023年からは、主にロンドン郊外を環状方向に結ぶ、高い速達性を目指したバス路線を“Superloop”と名付け、段階的に導入を進めています。

スーパーloopの導入は、バス運転手の父親を持つ現ロンドン市長サディク・カーン氏の看板政策の1つでもありました。サディク・カーン氏は2024年の市長選挙で3選を果たしましたが、この際の公約にも、スーパーloopの路線網を拡充する内容が盛り込まれました。



●総動員チップス ※IBSコンソ連携

地域の公共交通課題を解決せよー「地域モビリティプロデューサー」に求められる条件を語るー 浅見 知秀氏



浅見 知秀（株式会社みちのりホールディングス ディレクター）

略歴：

埼玉県葛西町（現久喜市）出身、筑波大学で都市計画、交通計画を学ぶ。
JR東日本にて、新駅建設・新幹線高速化プロジェクトなどに従事。その後、国土交通省にて、都市計画分野の政策立案、自治体支援業務に従事。小山市に出向時は、都市整備部長・技監として、都市計画、公共交通分野の指揮監督に従事する。現在、みちのりホールディングスにて、グループ各社に関わる交通計画の策定・支援、新モビリティサービスの開発・普及等に従事中。

著者：片桐暁

監修：筑波大学教授 谷口綾子

インタビュー：筑波大学修士課程（2023年度修了） 溝口哲平

（2023年12月29日インタビュー実施）

文字起こし/編集：筑波大学修士課程1年 大月崇義

Introduction 「地域モビリティプロデューサー」とは

●人物にまつわるビリティ物語

2-2 研究開発の進捗／ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：Webサイト運用中（ナレッジ蓄積中）

●2025年度公開ページ一覧（1/2）

No.	公開日	タイトル	カテゴリ
29	2025/11/28	貨物線跡地の有効活用～マンチェスターのガイドウェイバス～、マンチェスター	総動員チップス（国外編）
30	2025/11/28	高頻度な公共交通とマルチモーダルな結節点で形成されたネットワーク～マンチェスターの郊外拠点再生と公共交通ネットワーク再編～、マンチェスター	総動員チップス（国外編）
31	2025/12/5	世界モビリティニュース 2025年11月	世界モビリティニュース
32	2025/12/24	行政と民間事業者の運行契約～ロンドンのフランチャイズ制度の知見～	総動員チップス（国外編）
33	2026/1/8	世界モビリティニュース 2025年12月	世界モビリティニュース
34	2025/12/25	低交通近隣地区（LTN）の効果～ロンドンの150以上の成果レポートからの知見～	総動員チップス（国外編）
35	2025/12/25	環状ネットワークを結ぶ新たなリ・デザインの挑戦～ロンドンのスーパーループ～	総動員チップス（国外編）
36	2025/12/24	バス優先政策のガイドライン～ロンドン市交通局2025年度最新版を読み解く～	総動員チップス（国外編）
37	2026/1/30	市の基金を運用した財務面の工夫、トランスミレニオ社（コロンビア）	総動員チップス（国外編）
38	2026/1/30	市民との徹底的なコミュニケーションに基づくスマートシティ戦略、クリチバ市（ブラジル）	総動員チップス（国外編）
39	2026/1/30	元祖BRT先進事例における柔軟な施策展開、クリチバ市（ブラジル）	総動員チップス（国外編）
40	2026/2/6	世界モビリティニュース 2026年1月	世界モビリティニュース
41	2026/2/28	BRTについて	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
42	2026/2/16	続 BRTについて	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
43	2026/2/16	連節バスについて	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
44	2026/2/16	BRTと自動運転	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
45	2026/2/16	フランスのBHNS（BRT）事例	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
46	2026/2/15	実証実験を数多く見てきて	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
47	2026/2/16	ライドシェア解禁の話題	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
48	2026/2/16	続・ライドシェアについて	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
49	2026/2/16	道路交通における公共交通の優先について	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
50	2026/2/16	ウォークアブルについての一考察	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
51	2026/2/16	都市のバス交通計画を考える際の基本的視点（その1）	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
52	2026/2/16	都市のバス交通計画を考える際の基本的視点（その2）	モビリティ・マネジメントに関する図書・論文
53	2026/2/28	EU指令によるナショナルアクセスポイントの設置、欧州委員会	総動員チップス（国外編）
54	2026/2/28	欧州共通のモビリティデータの調和、NAPCORE	総動員チップス（国外編）
55	2026/2/28	国主導のモビリティデータポータル構築、ドイツ連邦/BASt	総動員チップス（国外編）

2-2 研究開発の進捗／ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：Webサイト運用中（ナレッジ蓄積中）

●2025年度公開ページ一覧（2/2）

No.	公開日	タイトル	カテゴリ
1	2025/4/1	世界モビリティニュース 2025年3月	世界モビリティニュース
2	2025/5/1	世界モビリティニュース 2025年4月	世界モビリティニュース
3	2025/6/1	世界モビリティニュース 2025年5月	世界モビリティニュース
4	2025/7/1	世界モビリティニュース 2025年6月	世界モビリティニュース
5	2025/7/15	つながりが育むまち－東神楽町の健幸まちづくり物語－	地域での物語
6	2025/7/28	まちなかオンデマンド交通MOIA、ハンブルク市	総動員チップス（国外編）
7	2025/7/28	2030年1万台無人運転計画による都市交通のり・デザイン、ハンブルク市	総動員チップス（国外編）
8	2025/7/31	地域の公共交通課題を解決せよ－「地域モビリティプロデューサー」に求められる条件を語る－ 浅見 知秀 氏	人物にまつわる物語
9	2025/8/10	地域の公共交通課題を解決せよ－「地域モビリティプロデューサー」に求められる条件を語る－ 村尾 俊道 氏	人物にまつわる物語
10	2025/8/10	地域の公共交通課題を解決せよ－「地域モビリティプロデューサー」に求められる条件を語る－ 東 徹 氏	人物にまつわる物語
11	2025/7/31	企業や自治体の一部業務を担える自営型テレワーク「KADO」の取組み（（一財）塩尻市振興公社）	総動員チップス（国内編）
12	2025/7/31	市民の足として企業の輸送資源（シャトルバス）を有効活用 -湖西市-	総動員チップス（国内編）
13	2025/8/5	世界モビリティニュース 2025年7月	世界モビリティニュース
14	2025/8/30	手ぶらでチケット、タッチ不要の究極の移動サービス、ハンブルク市	総動員チップス（国外編）
15	2025/8/30	地域版の官民データ連携基盤、ドイツのモビリティデータスペース、ハンブルク市	総動員チップス（国外編）
16	2025/9/2	世界モビリティニュース 2025年8月	世界モビリティニュース
17	2025/9/5	交通と不動産が一体となった新たな交通まちづくり、ベルリン（BVG）	総動員チップス（国外編）
18	2025/9/5	路面電車の走行空間とバス走行の一体運営、ベルリン市	総動員チップス（国外編）
19	2025/9/26	地域主導のマルチモーダルな街路デザインガイドの改訂、Transportation Research Board（アメリカ）	総動員チップス（国外編）
20	2025/9/26	交通のデータガバナンス専属組織による都市交通経営、アメリカ各都市の交通事業者	総動員チップス（国外編）
21	2025/10/6	世界モビリティニュース 2025年9月	世界モビリティニュース
22	2025/10/8	公共交通って、けっして“乗り物の話”だけじゃない－地域の足を支える人たちへ、2本の動画からのヒント－	地域での物語
23	2025/10/22	公正性（エクイティ、Equity）を重視した交通政策への転換、米国	総動員チップス（国外編）
24	2025/10/22	ライドシェアに対する様々な課税措置の実態、米国	総動員チップス（国外編）
25	2025/10/22	世界一の渋滞都市で高速・高頻度運行を実現したBRT、ニューヨーク	総動員チップス（国外編）
26	2025/11/7	世界モビリティニュース 2025年10月	世界モビリティニュース
27	2025/11/28	民から官民連携へ～マンチェスターの都市交通り・デザイン「Bee Network」～、マンチェスター	総動員チップス（国外編）
28	2025/11/28	住宅開発や公園と一体となったモビリティハブ～マンチェスターのアンコーツ・モビリティハブ～、マンチェスター	総動員チップス（国外編）

2-4 他コンソ・他課題・関係省庁との連携状況

- SIP包摂的コミュニティのTWRコンソと健幸ものがたり構築・共有の仕組みで連携
- SIPスマホIBSコンソとの連携
 - ・チップス集とインタビュー調査同行，文字おこしテキスト共有などの連携を実施
 - ・知恵袋における情報発信の連携

SIPスマホの筑波大ナラティブコンソの「物語」構築と共有の仕組みを，SIP包摂的コミュニティのTWR(つくばウェルネスリサーチ)の研究課題に**応用**し，**見附市物語構築と共有**を行い，研修会の冒頭に使いたい，市民にも周知したいなど，たいへん**好評**を得ている。これらはモビリティ値手袋に掲載予定。



元市長 久住氏

▼健康まちづくりを進める意思が固まった出来事：

たまたま、前市長が進めていたもので**見附で健康教室をやろう**という流れがあって、**それを引き継いだ**んですね。やってみたら、やっている人(健康教室参加者)が非常に楽しかったという評価をしてくれたんです。

▼ネーブルみつけの役割が浸透したきっかけ：

1年間ぐらいの災害の経験の中で、多くの人がネーブルみつけを頼りにしてくれました。親しみを持ってくれたと思うんですね。
1年間必死になって働いて、蓋開けてみたら隣には日々来てくれる市民がいて。そうやってうちの役割が精査されていったのかな。



まちづくり課 遠藤

▼事業を進める上で達成感を感じること：

やはり、参加されている市民の皆様からのご意見でしょうかね。「**健康に対する意識が変わってより歩くようになった**」んだとか、「**家族にもその話をして家族も含めて健康に対する意識が上がった**」かなというのは、やはりやってよかったかなと思うところですね。



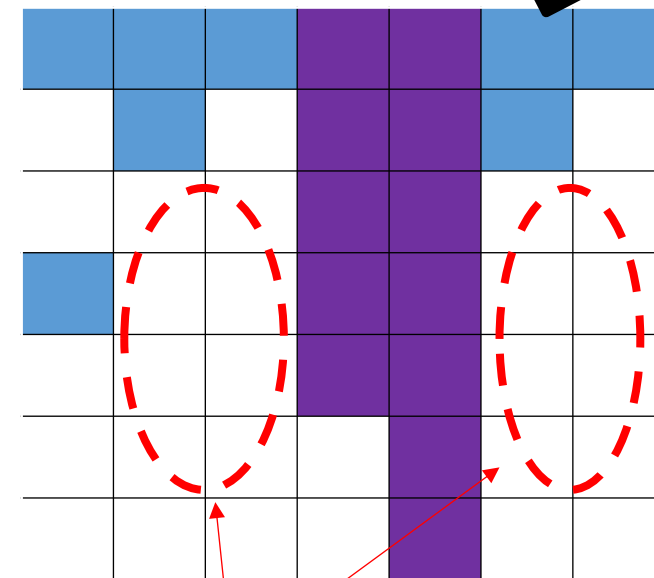
健康福祉課 小林氏

見附市健幸まちづくり物語



IBSチップス

- ・幅広い地域特性での取組
- ・課題分類ごとの取組



ここも推測・解釈？できるように？

モビリティ知恵袋での情報連携

ナラティブ
・経緯・因果関係
・フェーズ、局面的ポイント
・動かす体制、コミュニティの工夫

2-5 研究開発に対するコンソ外機関等の貢献

研究の協力者

項目	協力者	内容	備考
自動運転社会的受容標準指標構築のための調査対象地	青森県庁・十和田市 日立市・みちのりHD 当別町	アンケート調査に協力	国交省自動車局（地域公共交通確保維持改善事業費補助金） 国交省道路局（路車協調システム及び走行空間の技術的検証を目的とした自動運転実証実験）
自動運転バスエクステリアの検討	国立交通安全環境研究所	エクステリアの検討に助言	内閣府SBIR
物語の構築 （各インタビュー）	再生塾・見附市関係者・その他	インタビュー調査、完成テキスト確認に協力	
必要とされるモビリティ人材分析	JCOMM参加者	アンケート調査回答協力	
人材育成カリキュラム検討	全国の地域人材育成プログラム実施者（16団体22プログラム）	活動状況アンケート調査回答協力、 情報提供	

フィールド展開先

展開先	政策の立案・実行の内容	備考
庄原MaaS検討協議会 （広島県庄原市）	・R6実証実験を踏まえた、振り返りの場づくり、今後の展開の体制についての関係者での議論を展開	国交省 総政局（共創MaaS実証プロジェクト）
奥入瀬十和田利活用協議会 （青森県・十和田市）	・行政だけでない推進体制のあり方について検討を実施	
仮称：ニセコビジョンワーキンググループ （北海道倶知安町）	・官民の有志での意見交換の場づくり、ビジョンについての議論を開始	